

# ひとめぼれに替わる水稻新品種「なすひかり」の栽培法

## 1. 試験のねらい

平成16年3月に栃木県の奨励(認定)品種に採用された、早生で栽培性が優れ良食味の「なすひかり」の早植栽培法と診断基準を策定し、現地普及の資とする。

## 2. 試験方法

(1) 試験は平成13~14年の2カ年、農業試験場本場水田(厚層多腐植質多湿黒ボク土)で実施した。

(2) 供試材料は「なすひかり」で、比較品種としてひとめぼれを供試した。

(3) 試験は早植(4月13~15日播種、5月8~9日移植)で、下記要因を組合せて実施した。

要 因	処	理
基肥量(N:kg/a)	0.4	0.6
穂肥量(N:kg/a)	0.2	0.4
穂肥時期	出穂前15日	20日

注 ひとめぼれは基肥量N:0.6kg/a、出穂前15日18日N:0.4kg/a穂肥。栽植密度は全て22.2株/m<sup>2</sup>

## 3. 試験結果および考察

(1) 平成13年は7月の記録的な猛暑で、出穂期が平年より4日程度早まり、外観品質は、8月上中旬の低温日照不足により、乳白米が多く発生した。平成14年は低温日照により初期生育が遅れ、7月に入りかなり高温に経過したものの、出穂期が3日程度遅れた。外観品質は、8月上旬の高温低湿により乳白米が多く発生した。

(2) 基肥量の違いによる生育は、平成14年に差がほとんど見られなかったものの、平成13年の基肥窒素量0.6kg/a区では茎数が多く経過し総粒数が過剰となった。また、同区の乳白・腹白の発生率は2カ年とも多かった。玄米重は基肥窒素量0.4kg/aがやや重い傾向が見られたため、基肥窒素量は0.4kg/aが良いと考えられる(表1)。

(3) 追肥(穂肥)時期の違いによる生育の差は2カ年ともほとんど差が見られないが、施用時期が早いと千粒重が重くなる傾向が僅かに見られた。追肥量の違いでは0.4kg/a区で玄米重が重いため、基肥窒素量0.4kg/aの場合、追肥時期は出穂前20日、追肥窒素量は0.4kg/aが良いと判断された(表1、図3)。

(4) なすひかりの収量66kg/aを目標とする収量構成要素は、穂数440~460本/m<sup>2</sup>、1穂粒数75~80粒、総粒数は34,000~37,000/m<sup>2</sup>、登熟歩合80%と判断される。また、適正粒数を確保するための生育途中の診断指標値の範囲は、移植後30日の茎数、葉色、葉色×茎数値がそれぞれ610~620本/m<sup>2</sup>、4.4~4.6、2,700~2,800、最高分けつ期で同様に650~670本/m<sup>2</sup>、4.2~4.5、2,800~3,000である(表1、図1~5)。

## 4. 成果の要約

新奨励(認定)品種「なすひかり」の早植栽培における施肥法は、基肥窒素を0.4kg/a、追肥時期を出穂前20日、追肥窒素量を0.4kg/aとするのが良い(穂肥量はBB-NKC202を用いて窒素成分で0.4kg/a)。また、目標とする収量構成要素と生育途中の適正生育量の目安を明らかにした。

(担当者 作物経営部 作物品種開発研究室 伊澤 由行)

表1 施肥法と収量、構成要素、品質、蛋白含量 (2力年平均)

品種名	処理名	基肥窒素 (kg/a)	追肥時期	追肥量	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m <sup>2</sup>	1穂粒数 粒	総粒数 ×100 粒/m <sup>2</sup>	登熟歩合 %	玄米重 kg/a	同左比 %	千粒重 g	乳白腹白 %	玄米蛋白 %
なすひかり	0.4	-15	0.2	85.8	19.1	453	77.3	350	82.5	65.1	100	22.2	11.2	7.4	
				86.9	19.4	457	77.6	355	82.1	66.0	101	22.3	11.2	7.9	
				85.9	19.3	445	76.9	343	83.4	65.0	99	22.5	11.2	7.3	
				87.1	19.8	443	80.6	358	80.9	66.6	102	22.8	12.0	7.5	
	0.6	-15	0.4	88.1	19.2	457	77.6	355	82.3	65.2	100	22.1	15.1	7.4	
				89.2	19.4	475	78.1	372	79.3	65.5	100	22.0	15.3	7.4	
				85.8	19.2	447	79.3	356	80.5	63.9	98	22.3	13.0	7.5	
				86.9	19.8	448	80.9	364	79.7	65.5	100	22.5	15.7	7.4	
ひとめぼれ	0.6	-18	0.4	91.0	19.7	501	83.0	413	69.1	61.7	-	21.6	15.4	8.1	
なすひかり	基肥窒素	0.4	0.6	86.4	19.4	450	78.1	351	82.2	65.7	101	22.4	11.4	7.5	
				87.5	19.4	457	79.0	361	80.5	65.0	99	22.2	14.8	7.4	
	追肥時期	-15	-20	87.5	19.3	461	77.7	358	81.5	65.4	100	22.1	13.2	7.5	
				86.4	19.5	446	79.5	355	81.2	65.2	100	22.5	13.0	7.4	
	追肥量	0.2	0.4	86.4	19.2	451	77.8	351	82.2	64.8	99	22.3	12.6	7.4	
				87.5	19.6	456	79.3	362	80.5	65.9	101	22.4	13.6	7.6	

注) 1 乳白・腹白%はSi式RS-2000、玄米蛋白%は平成13年Si式GS-2000平成14年ke式AN-800で判定した。  
 注) 2 玄米重比率は平均玄米重比とした。

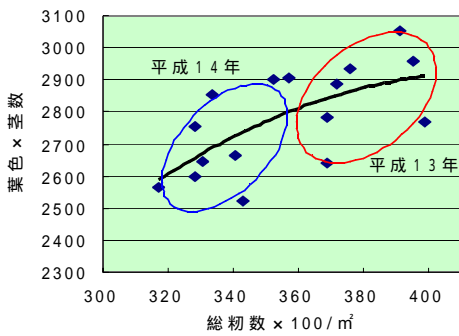


図1 総粒数と葉色 × 茎数値(+30日)

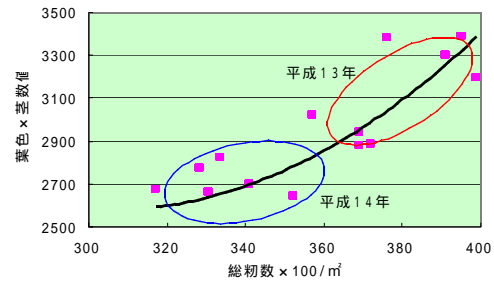
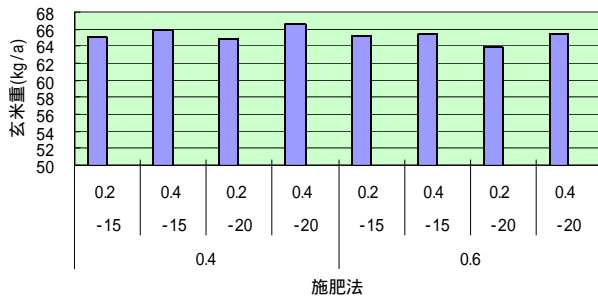


図2 総粒数と葉色 × 茎数値(最分期)



注) 施肥法は上段：追肥窒素量(kg/a)、  
 中段：追肥時期(出穂前日数)  
 下段：基肥窒素量(kg/a)

図3 施肥法と玄米重

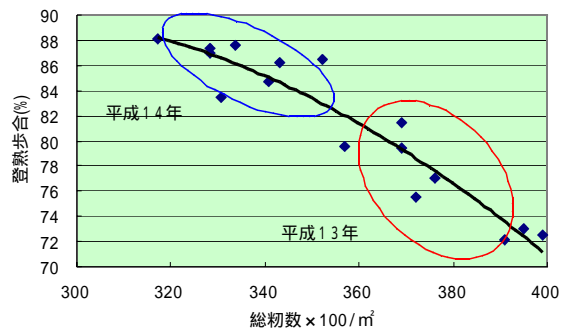


図4 総粒数と登熟歩合

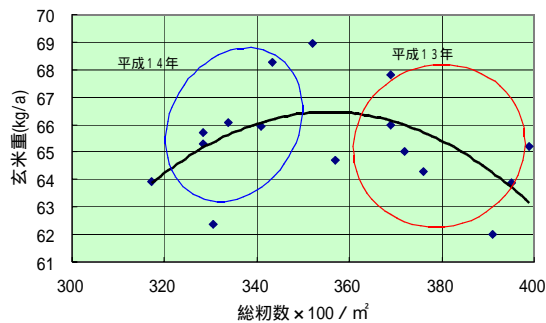


図5 総粒数と玄米重